

# 〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

大学評価・情報シリーズ 26 (通算 485 回)

2010 年 12 月 10 日 (金)

学生は何を得たのか／教学改善への PDCA——

## アウトカム評価としての教学 IR の機能強化策

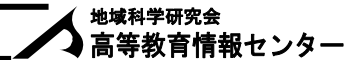
～ データの収集・分析・活用の実際／評価担当＋FD 部門＋部局の協働 ～

- ※ 認証評価第 2 ステージの新大学評価システム／内部質保証と IR／質向上とアウトカムズ・アセスメント
- ※ 教学 IR コトハジメ／訴求力ある企画提案／学部に合わせて学生調査、段階的開発／内部質保証と FD
- ※ [大阪府立大] 全学 FD の変遷／学生データの利活用／IR ネットワークの構築／相互評価と質保証
- ※ [島根大] 学生調査の設計／FD 対話ツールとしての教学 IR／学生ポートフォリオへの活用／重層的 PDCA

### ● 講師陣 ●

- 工藤 潤 氏 / (財)大学基準協会 大学評価・研究部長  
 鳥居 朋子 氏 / 立命館大学 教育開発推進機構 (IR プロジェクト) 教授  
 高橋 哲也 氏 / (公)大阪府立大学 総合教育研究機構 教授  
 山田 剛史 氏 / (国)島根大学 教育開発センター 副センター長、准教授

2010 年 12 月 10 日 (金) 剛堂会館ビル 会議室 (東京・麹町)



日時：2010 年 12 月 10 日 (金) 9:40～16:50  
 会場：剛堂会館ビル (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)  
 千代田区紀尾井町 3-27 03-3234-7362  
 アクセス：東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より  
 徒歩 4 分、または JR 中央・総武線「四ツ谷駅」  
 麹町口より徒歩 10 分  
 ※会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ  
 FAX または E-mail にてご送付ください。  
 支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。  
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880  
 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658  
 郵便振替 00110-8-81660  
 口座名 (株)地域科学研究会  
 ※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に  
 代えさせていただきます。

参加費：A. ご一名 (資料代込)  
 41,000 円 (消費税込)  
 B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付)  
 42,000 円 (送料、消費税込)  
 ※参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター  
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
 Tel: 03 (3234) 1231 Fax: 03 (3234) 4993  
 E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp  
 HP: http://www.chiikikagaku-k.co.jp/

☆ FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

キリトリ線 (※参加申込みの折は必ずお送りください)

### 研修会参加申込書

大学評価・情報シリーズ 26 2010 年 月 日

### アウトカム評価としての教学 IR の機能強化策

当日参加  メディア参加  
 (□に✓印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ 連絡部課・担当者 \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法 (  郵便振替  当日払い  銀行振込 ) 必要書類 [  請求書  見積書 ]

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講 義 項 目
9:40 ~ 11:00	<p>□ 認証評価第2ステージにおける内部質保証システムの構築 ～内部質保証を支える IR 機能の確立～</p> <p style="text-align: right;">大学基準協会 工藤 潤</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証システムはなぜ必要か             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学における自己点検・評価の実態</li> <li>(2) 大学基準協会の新大学評価システムの導入背景</li> <li>(3) 新大学評価システムの概要</li> </ol> </li> <li>2. 内部質保証の要となるプログラム・レビュー             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 機関別評価と専門分野別評価のあり方</li> <li>(2) 教育内容・方法・成果の検証</li> <li>(3) 諸外国のプログラム・レビューの事例</li> </ol> </li> <li>3. 内部質保証システムを実質化させる部門の設置とその役割             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学に求められる IR 機能</li> <li>(2) IR 機能を支える人的体制の整備</li> <li>(3) IR 機能としての評価プログラムの策定</li> </ol> </li> <li>4. 大学教育の質向上— I R 機能への期待—             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 質向上のためのアウトカムズ・アセスメント</li> <li>(2) クオリティ・カルチャー形成のムーブメントを起せるか</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
11:10 ~ 12:40	<p>□ 質保証の文脈における教学 I R の開発 ～データに基づく教育改善～コンセプト共有と段階的推進～</p> <p style="text-align: right;">立命館大学 鳥居 朋子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証の課題と教学 I R コトハジメ             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) IR のミッション・ステートメント策定</li> <li>(2) 優先課題の特定と既存調査類のマッピング</li> <li>(3) 間接的評価としての学生調査</li> </ol> </li> <li>2. 「学びの実態調査」の段階的開発             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 訴求力のある企画提案</li> <li>(2) パイロット調査の企画と実施</li> <li>(3) 学部の事情に合わせた提案・実施</li> </ol> </li> <li>3. 教学 I R と F D のリンケージ             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前提となる Research Question</li> <li>(2) 学部の学習・教授の文脈への理解</li> <li>(3) データの解釈をめぐる議論</li> </ol> </li> <li>4. 「学びのコミュニティ」としての挑戦             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教学 IR が照らし出す課題</li> <li>(2) 質保証システムを支える「アクター」の特定</li> <li>(3) バックボーンとしての ICT</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
13:40 ~ 15:10	<p>□ [大阪府立大] データに基づく教学マネジメントへの転換 ～全学 FD / 学生調査とデータベースの構築 / 4 大学 IR ネットワーク～</p> <p style="text-align: right;">大阪府立大学 高橋 哲也</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学 F D に向けての動き             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3 大学統合と公立大学法人化 (17 年度) 以前の状況</li> <li>(2) 高等教育開発センターと教育改革専門委員会</li> <li>(3) F D の変遷</li> </ol> </li> <li>2. 学生データの利活用             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) GPA 制と CAP 制の導入</li> <li>(2) 教学分野データの収集・分析の問題点</li> <li>(3) データに基づく意思決定プロセス</li> <li>(4) 大学改革に向けて</li> </ol> </li> <li>3. 大学評価との関係             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 組織体制</li> <li>(2) 認証評価への対応</li> <li>(3) IR 部門の必要性</li> </ol> </li> <li>4. I R ネットワークの構築に向けて (戦略的大学間連携事業)             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生調査と教務情報のマッチング及び大学間の相互評価</li> <li>(2) 質保証とベンチマークのためのデータベース構築</li> <li>(3) 今後の課題</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
15:20 ~ 16:50	<p>□ [島根大] 内部質保証の文脈における教学 I R と F D の連動 ～アセスメントの総合化と教学改善マネジメント～</p> <p style="text-align: right;">島根大学 山田 剛史</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証システム構築に向けた教学 I R と F D の再定位             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前提としての学習者中心パラダイムへの転換</li> <li>(2) 内部質保証という文脈下での教学 IR と F D の再定位</li> <li>(3) 教学 IR と F D の連動推進～現状と基盤整備</li> </ol> </li> <li>2. 教学 I R 推進の一翼を担うアセスメント (学生調査) の開発             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開発 1～意図・目的、視点・位置づけ</li> <li>(2) 開発 2～インプット、プロセス、アウトカム</li> <li>(3) 開発 3～個々の利点・欠点、課題・問題点</li> </ol> </li> <li>3. アセスメントを核とした教学 I R と F D のリンケージ             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) データ分析の手法～教学データとのリンクも含む多様な分析デザイン</li> <li>(2) マルチレベルの F D へと接続～対話ツールとしての可能性</li> <li>(3) 学生へと接続～成長のための学生ポートフォリオの可能性</li> </ol> </li> <li>4. 多様な“声”が出会う場の創出に向けて             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) データが語るものの可能性と限界～static から dynamic へ</li> <li>(2) 多様なアクターの同定と役割、権限の明確化～自律的協働によるシナジー効果</li> <li>(3) 重層的 PDCA サイクルのデザインとマネジメント</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>